

入選

小さな親切 ありがとうのたび

香川県 詫間小学校 三年

水口 偉三郎

ぼくは、お母さんと二人で広島に旅行に行きました。久しぶりの旅行なので、とても楽しみにしていました。広島に着いてすぐ、おこのみやきを食べました。ぼくが今まで食べた中で、一番おいしかったです。夕方になって、「サンフレッチェ広島」をおうえんしに行きました。ぼくは、サッカーがすきなのですごく楽しかったです。夜はホテルにとまって、次の日は、たくさんおみやげを買って帰ることにしました。

帰りの新かん線は、人がいっぱいですわれませんでした。お母さんが、ぼくがこけないようにささえてくれました。お母さんが、「だいじょうぶ？ つかれてない？」と聞いてくれたけれど、ぼくは、正直くたくたで、すわりたい気持ちでいっぱいでした。たくさん歩いたので、足もつかれていてねむかったです。

すると、大学生くらいのお兄さんが、「ぼく、すわっていいよ。」と、せきをゆずってくれました。ぼくは、とてもうれしい気持ちになりました。お母さんの顔を見ると、お母さんもとてもうれしそうでした。お母さんは、「ありがとうございます。」と、お兄さんにお礼を言いました。ぼくもお兄さんに、「ありがとうございます。」と言って、すわりました。せきは一つだったので、ぼくだけすわりました。そして、ぼくはねてしまいました。

もうすぐえきに着くので、おりるじゅんびをしていたら、さっきせきをゆずってくれたお兄さんがいて、ぼくとお母さんはとてもびっくりしました。なぜなら、お兄さんがゆずってくれたとき、

「すぐおりるから、だいじょうぶです。」と書いていたからです。

ぼくは、うそだったのか、と思いました。ぼくは、ふだんうそをつくとき、お母さんにおこられてしまいます。でもお母さんは、新かん線をおりるとき、お兄さんに、

「とってもたすかりました。ありがとう。少しだけ食べてね。」

と、おまんじゅうをわたしました。お兄さんは、

「うれしいです。ありがとうございます。」と言いました。

おこられないうそもあるんだな、と思いました。お母さんに聞いたら、

「あいてのことを思うやさしいうそは、うれしいね。」と、うれしそうに言っていました。

ぼくとお母さんは、とてもつかれていたけれど、なんだか元気になりました。あたたかい気持ちになりました。そして、あたたかい気持ちになると、体も元気になるんだなあ、とびっくりしました。おかげでぼくとお母さんの広島旅行は、とても楽しい思い出になりました。

ぼくもだれかがこまっているときは、やさしい言葉をかけたり、親切な行動ができるようになりたいです。お友だちや先生、家族、ぼくのまわりの人たちがあたたかい気持ちになったらうれしいです。

そして、どんどん広がって、たくま、香川、日本、世界みんなに広がっていったらいいな、と思いました。お兄さん、ありがとうございます。